

振興会だより

# よしだ

2026年(令和8年)  
2月6日発行  
第56号  
吉田地区振興会

## 第十七回歴史探訪 鞆の浦・福山城をめぐる旅

10月25日、総勢44名で出発しました。小雨が降り始めたので心配しましたが、最初の訪問地である鞆の浦に到着したときには雨はすっかり上がっていました。



仙酔島を背景にして集合写真を撮ったあと、各自の興味と脚力に応じて3コースに分かれ、現地ガイドの案内でフィールドワーク開始。3コースとは、毛利氏が基礎を築いた城があったとされる丘の上に立つ歴史民俗資料館、朝鮮通信使が「日東第一形勝」と讃えた対潮楼、そして保命酒の造り酒屋でありながら、頼山陽や三条実美など歴史上の重要人物が滞在した豪邸・太田家住宅を訪ねるコースです。

鞆の浦の町並みは隣家どうしが長屋のように寄り添った構造となっており、昔ながらの佇まいが今日も息づいています。時間が止まったような郷愁を誘う風情に誘われて、国内外から多くの観光客が訪れています。架橋問題で約40年間も紛糾が続き



ましたが、今年開通したトンネルはたしかに交通混雑の解消に効果大だそうです。しかし町の人口が減少した今日、「日本の宝」とも言われる町並みを維持するためには大変な苦勞もあると想像します。空き家の活用、防災対策、年中行事、観光資源の保全など、町づくりと地域振興の点で学ぶべきことが多くあると感じました。

福山市街に戻って昼食を終えると、福山城に向かいました。福山城は三年前に築城四百年を迎え、「令和の大普請」が行われました。白くそびえる天守の北側には防御のための鉄板張



り、取り囲むのは話題となった伏見櫓や月見櫓、湯殿、筋鉄御門等々。なんとまあ、豪勢な城！ガイドさんによれば、徳川幕府は、関ヶ原で敗れた西軍の大將・毛利氏を監視する目的もあって、これほどの威容を持つ城を藩主・水野勝成に築かせたということなのです。

ところで、この度の歴史探訪で、私が直接話したガイドさん二人は定年退職後にこの活動を始めたそうで、「今も勉強中ですよ」と言っていて笑われました。この姿勢に学びたいものです。

(文化教育部 國光俊克)

**地域懇談会  
藤本市長と語る対話集会**

10月19日(日) 13時30分から  
マルシンクリスタルアージョ  
小ホールで7年ぶりの地域懇談  
会として「藤本市長と語る対話  
集会」を開催しました。

最初に市長から市政の現状に  
ついて説明していただきその  
後、意見交換をおこないました。  
質問と回答は誌面の範囲内で  
紹介します。



① 認定こども園の規模や施設  
内容、定員・園児数の見込み  
について、現時点でどのよう  
に想定されていますか。

【回答】 吉田地区認定こども園  
について、敷地面積約6500  
㎡、定員160名を想定した規  
模で計画しています。

園児数については、今年3月  
に策定した「第3次子ども・子  
育て支援事業計画」の人所見込  
みから、定員の約80%程度を想  
定しています。

次に施設の内容ですが、造成  
工事は市が行い、園舎等の設計  
や建築工事は、設立運営法人で  
ある「社会福祉法人 報正会」  
が実施します。園舎には保育室、  
遊戯室、乳児室、ほくく室、調  
理室などが整備される予定です。  
設計の段階から市と法人とで  
協議を重ね、幼保連携型認定こ  
ども園の施設基準を満たした上  
で、子どもたちが安全で快適に  
過ごせる施設になるよう配慮し  
ます。

② 認定こども園では、どのよ  
うな教育・保育の方針を掲げ  
ているのか、どんな子供を育

ていきたいと考えているの  
か、市としての思いやビジョ  
ンを伺います。

【回答】 吉田地区認定こども園  
は、用地取得から造成までを市  
で行ない、園舎、園庭などの建  
設、並びに園の運営は、公募に  
よって選ばれた運営法人によっ  
て実施されます。このたび運営  
法人として決定した「社会福祉  
法人報正会」は、これまで長年  
にわたって地域に根差した保育  
事業を展開されています。

子どもたちの個性を尊重し、  
子どもたちが豊かな人間性を育  
み、将来にわたって自ら考え、  
行動する「生きる力」を育むこ  
とを保育理念に掲げられていま  
す。

一方で、市としてのビジョン  
については、子どもたちが他人  
を思いやりながら自分たちの未  
来を築く力を育むために、子ど  
もたちの共感性、内発性、創造  
性を育成することを目標に掲げ  
ています。表現は異なっても、  
運営法人が掲げている保育理念  
は、本市のビジョンに沿ってい  
るものと捉えています。

③ 認定こども園の予定地は県  
道沿いで、登園時には車や自  
転車で来る保護者が県道を右  
折して進入するケースが多く  
なると予想される。しかし、  
現地には信号機や横断歩道が  
なく、朝の通勤時間帯には通  
行量も比較的に多いため、交  
通安全の面で不安の声が地域  
住民からも上がっている。こ  
うした点について、どのよう  
な交通安全対策を検討してい  
るのか、具体的な考えがあり  
ますか。

【回答】 予定地に隣接する主要  
地方道吉田邑南線は、安芸高田  
市でも比較的交通量が多い路線  
となっております。通園時などの  
交通安全対策は必要と考えてお  
り、歩道等の改良も含めて、施  
設の周辺整備を行う中で検討を  
進めているところです。

④ 高校は勿論のこと、中学か  
ら市外の学校に進学する生徒  
が多いと聞きますが、この現  
状をどのようにとらえていま  
すか。

【回答】 中学校から高校への市  
外進学率は近年60%前後で推移

しており、大きな増減はありません。また、小学校から中学校への市外進学率も、近年7〜10%で推移しており、特別支援学校への進学や、転居を除くと大きな増減はありません。

小中連携・中高連携を積極的に進めて、児童生徒・保護者が安芸高田市で教育を受けたいと選んでもらえるようにしていきたいと考えています。

⑤ 小学6年と中学3年の全員を対象に4月に実施した全国学力テストの都道府県別の結果が公表されました。上位は例年と同様で、秋田、富山、石川、福井などで広島県はほぼ平均でした。安芸高田市の結果はどうかを伺います。  
また、新聞記事によると上位の県は自治体や学校の取組みが学力を伸ばしている可能性があると報じていますが、本市の今後の取組みについて伺います。

【回答】本市の全国学力・学習状況調査の結果については、残念ながら広島県や全国の平均値を下回っています。特に大きく

下回っている小学校算数については、市内で授業研修を行い、研修を深めているところです。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各校にて授業改善を進めています。

⑥ 令和8年3月に廃止予定の吉田町・常友市有住宅について、入居者は退去を求められています。すでに民間のアパートへ転居された方の中には生活が厳しくなったという方もおられます。

一方で、三次市では老朽化した定住促進住宅を民間企業へ有償譲渡し、住民が現行以下の家賃で住み続けられるよう配慮されています。規模は小さいものでも、吉田町に市営住宅の整備は必要だと思えます。または、世帯用の郡山市有住宅の一部を市営住宅にすることは出来ないでしょうか。

【回答】将来の人口の推移により、現在吉田町に新たに公営住宅を新築する計画はありません。ですが、将来的に状況を見て、計画していくことは考えら

れます。また、市有住宅を市営住宅にということについても、今後状況をみていきます。

⑦ 政府は、過疎地などで高齢者が安心して暮らせる住まいを確保するため、低料金で入居できるシェアハウスを全国的に整備する方針だ。既存施設を利用して今後3年間で百か所を目指す。政府が地方創生の交付金で改修費を財政支援すること。今が高齢者にとっても必要ですが、現役世代にとっても吉田町に住み続けられる将来の安心が持てます。

そこで、市にある現在活用されていない施設や空き家などの活用、または既存の施設の空き部屋を活用してシェアハウスを整備することは出来ないか。

【回答】今後、一人暮らしの高齢者が増加していく中で、持続可能なまちづくりを進めていくためには、コンパクトシティを見据えた取り組みは不可欠なものとなります。その中で、複数の高齢者が一

つの住宅を共有しながら生活するスタイルのシェアハウスは、高齢者の経済的、精神的な負担を軽減できる選択肢として注目を集めています。

国の計画では、既存の高齢者施設等の空き部屋利用を想定していますので、各施設の現状と意向を踏まえて判断することとなります。また戸建て住宅をシェアハウスとして利用する場合は「寄宿舍」の扱いとなりますので、建築基準法や消防法など、クリアすべき条件があります。

まずは住み慣れた住居とは別の場所での生活が、高齢者にとってどの程度受け入れられるのか、ニーズを調査したうえで、方向性を見出しければと考えています。

⑧ 吉田町には郡山城を始め価値のある歴史遺産が数多くあります。地元は勿論のこと市外の多くの人に知ってもらうことが大切で、観光誘致にもなります。

市として現状どのように保護しPRしているのか伺いま

す。

【回答】本市の特色である「毛利元就」、「神楽」、「サンフレッチェ広島」などを生かした魅力発信は非常に大切であると考えています。とりわけ、郡山城跡の保護については、ボランティアの皆さんにもご協力いただき登山道の整備や案内看板などの設置を行い、安全な見学環境の確保に注力しているところです。

また、地元の方々はもちろん、市外の皆様に吉田町の歴史を知っていただくため、安芸高田市歴史民俗博物館では、今年度「毛利輝元没後四百年」を記念した企画展を開催し、歴史遺産の学術的な価値や魅力を分かりやすく紹介すると共に、特に戦国武将毛利元就ゆかりの地としての歴史的背景を強調した情報発信を行っています。

今後「史跡毛利氏城跡保存計画」に則り、毛利氏の歴史文化を今に伝える郡山城跡の価値と特色を市民・地域の支えで永く守り、活かしていくことを基本理念に、観光誘致にも繋げることで、地域経済の活性化に貢献したいと考えています。

⑨ 令和3年8月の多治比川決壊による大水害発生により、

令和4年に広島県内の江の川上流域が「特定都市河川」に指定され、令和5年に「江の川流域水害対策計画」の概要が発表されました。その後、進展があるのかをお聞きします。

また、多治比川の改修工事が進んでいます。完成しても内水問題は解消されません。多治比川左岸側も水害が発生します。

【回答】江の川流域水害対策として、吉田町国司、川向地区甲田町の瀬戸地区に調整池を計画しています。来年度から、施設整備に向けた基本設計業務を実施したいと考えています。

多治比川左岸については、現在、内水に係る雨水処理を計画する、雨水管理総合計画を令和8年度末に向けて策定中であり、内水の治水対策の検討を進めていきます。

⑩ 本市の課題として、人口減少とそれに伴う深刻な財政問



題があります。老朽化した公施設を今後も維持管理するのは難しいと思われます。公施設を削減することが大きな課題になっていますが、公施設の延床面積の削減目標に対して具体的にどのような対策を打ち、その結果の成果をお聞きします。

【回答】公施設の削減については、2015年2月に公施設等総合管理計画において、30%以上を削減する目標を掲げました。

2023年9月には、より具象となる施設ごとの廃止目標年度を定めた公施設廃止スケジュールを策定し、2034年度末までに延床面積を37%削減する目標を立てました。進捗については2024年度末時点で約15%削減となっています。

公施設廃止スケジュールは進捗状況に応じ、多様な関係者の皆様との協議を行いながら、原則として毎年見直しを行い、公施設の総量削減の達成に向けて努めていきます。

⑪ 吉田地区振興会としても、人口規模や活動実績の面で、市と協働したモデル的な事業にチャレンジしていきたいと考えています。市長として今後、振興会をどのような存在として位置づけ、どのようなことを期待されていますか。

【回答】地域振興会は、地域の元気を作り、地域の安心を守るために不可欠な存在です。特に最も人口の多い吉田地区については、地域の元気をつくる上で大いに期待するところです。

現に、吉田町の4振興会で構成される「吉田地区連絡協議会」は、さまざまな事業を実施されています。

例えば、毛利元就の武者絵巻を再現する「一心祭り」は地域の歴史文化を継承する重要な役割を担い、花いっぱい運動や一斉清掃などの活動は景観美化や住民の連帯感を育む活動となっています。

これらの活動が自分たちの地域は自分たちの手で盛り上げるという意識のもとで実施いただいていることに感謝いたします。

⑫ お茶屋頭首工の利用停止による環境への影響について

【回答】環境保全の推進にあたりましては、まず公共下水道未接続の方々に対し、早期の接続をお願いし、接続率の向上を図ります。

また、清掃活動等維持管理について、地域の皆様にご協力をお願いしているところです。今後とも変わらぬご協力をお願いいたします。

(総務部)

まちづくりリーダー研修

「世の中に役立つためのリーダーの資質」

講師 吉本 栄昶氏

12月6日(土)、まちづくりリーダー研修をクリスタルアールジョで開催し、66人が参加しました。

吉本氏は吉田町生まれで、吉田小・中・高校を卒業後、立正大学仏教学部宗学科を首席で卒業されました。現在は茨城県神栖市の長照寺と吉田町の蓮華寺の住職を兼務されています。

住職としてのみならず落語家「神栖亭南夢明」としても活動中です。吉田町を盛り上げたいと、毎年、マルシンクリスタルアールジョにて「笑う三人会」を開催されています。

また、鹿島工業地帯の企業体のリーダー研修や各種学校での講演を通して、地元に有意義な若者の育成を目指して活動されています。

主な役職

神栖市観光物産協議会会長、京都妙塔学林教授他



ユーモア溢れる軽妙な語り口でお話していただきました。

「教機時国抄」を現代に置き換えて①何をするか、そして成功することを考える。②自分の能力にあったことをする(適材適所)。③今やるべきか、もう少し先にするかと時を考える。④場所を考える。どこで行うか。⑤経験をもとに将来の事を考える。このことが大切でリーダーは誰でもなれると言われました。リーダーの資質に、悩みや問題を解決するために工夫し考えること、努力することが出来ることをあげておられました。そ

ここで問題を糸で表し、2人1組になって2本の糸をクロスさせてお互いの手首に結び付ける。それをほぐくことなく2人が離れることが出来るかという糸遊びを5組が行いました。多少時間ばかりでしたが、見事全組成功され、皆さん楽しんで取り組んでおられました。楽しんでやるのが非常に大切であると講師は強調されていました。また、人から「おかげさまで」と言われる方がリーダーであると話されたことが心に残りました。



(総務部 高都正則)

**ボランティア活動と交流会**

9月7日(日)、安芸高田市多文化共生センター「きらり」において、外国人技能実習生、地域住民、学生など計53名が参加し、グラウンドの芝刈りおよび施設周辺の草取りを行いました。

当日は、参加者同士が積極的に交流しながら作業を進め、約2時間にわたる清掃活動により、施設周辺は大変きれいな環境となりました。



清掃活動終了後には、日本料理とインドネシア料理を囲んだ交流会を開催しました。

インドネシアの伝統的なスープ「ソトアヤム」や、日本の稲荷寿司などが提供され、参加者同士の交流を深める良い機会となりました。

本活動を通じて、国籍を超えた相互理解と交流を図ることができ、多文化共生の推進に寄与する有意義な取り組みとなりました。

今後も、地域とのつながりを大切にしながら、継続的な交流活動に取り組んでまいります。

**モルック講習会と健康教室**

9月20日(土)、ウイクスポ(吉田運動公園)において、オールオンスポーツの杉田寛治氏を講師に迎え、モルック講習会および健康教室を開催し、19名が参加しました。

フィニランド発祥のスポーツ「モルック」を体験することで、年齢を問わず誰もが楽しめるスポーツを通じた交流を促進し、地域の活性化につなげることを目的として実施しました。

参加者の多くは初めての体験



でしたが、講師の丁寧な指導により理解を深め、4チームに分かれて競技を行いました。

講習会終了後には、「歳を重ねても健康に過ごすためのポイント」をテーマに健康教室を実施し、参加者から好評を得ました。

今後も、健康づくりと交流を目的とした活動を継続して行きたいと考えています。

女性部の活動にご参加いただいた皆さん、誠にありがとうございました。

(女性部 岡崎理香)

### 第27回吉田地区 グラウンドゴルフ大会

10月18日(土)に、第27回吉田地区グラウンドゴルフ大会がウイクスポ(吉田運動公園)で開催されました。この大会は、吉田町チャンピオン大会の予選会も兼ねています。

#### 団体の部

- 優勝 五丁目上 2位 郡山B
- 3位 西土手 4位 郡山A
- 5位 川向 6位 元気
- 7位 いちばん

#### 個人の部(敬称略)

- 優勝 大中康治(郡山B)
- 2位 岸田純一(五丁目上)
- 3位 松本忠義(郡山B)



優勝目指して

### 吉田町グラウンドゴルフ チャンピオン大会

11月23日(日)に、第28回グラウンドゴルフチャンピオン大会がウイクスポ(吉田運動公園)で行われ、27チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

#### 団体の部

- 優勝 5丁目上(吉田)
- 2位 下入江1(郷野)
- 3位 常友(可愛)

#### 個人の部(敬称略)

- 優勝 川角好枝(千川)
- 2位 宮脇真司(小山幸和会)
- 3位 岩崎克律(5丁目上)



優勝した5丁目上チーム

### ノルディックウォーク 講習会と健康教室

令和7年11月8日(土)に、吉田運動公園で、ノルディックウォーク講習会と健康教室を、専門の講師、杉田寛治氏を招いて開催しました。

参加者20名で秋晴れのなか、準備運動をして元就公墓所・清神社を巡る約2・5kmのコースを歩きました。健康教室ではポールを使ったストレッチの指導を受け、参加者から喜んでいただきました。

(体育部 石川達三)



健康教室



毛利元就公墓所

## 郡山城跡クリーン作戦

今年度は、郡山城跡の清掃・保全活動を長年実施されている、安芸高田市ボランティア連絡協議会の「安芸高田市ボランティア交流活動」に、市教育委員会会の「元就の里山守プロジェクト」と共に参加しました。

11月2日(日)総勢100人のボランティアが集まり、登山道の修復、枯れ木・危険木の伐採・玉切り、清神社境内の清掃・草取り、郡山城案内看板の清掃など多岐にわたり実施することが出来ました。今回の活動のように、他団体との連携・交流を通して横のつながりを深めることにより、吉田地区の振興を図っていききたいと思っています。

(産業観光部 井尻満)



伐採した木の玉切り



登山道の修復作業



県内外から参集したボランティア



清神社境内の清掃



郡山城跡の看板清掃

## 訂正とお詫び

前号(第55号)の5ページに掲載しました、令和7年度吉田地区振興会一般会計予算書の支出の部の合計額に誤った数字が記載されていました。正しくは882万9063円です。訂正して深くお詫び申し上げます。

## 編集後記

新体制が5月に発足し、活動を開始しました。今回は9月以降の事業を紹介させていただきました。総務部2件、体育部3件、女性部2件、文化教育部1件、産業観光部1件の合計9件です。

新しく始めた事業や久しぶりの事業もあり、多少戸惑うこともありました。全員の楽しみ喜んで頂いたことと思います。

「振興会だより」を通じて振興会事業を多くの人に知っていただき、特に若い世代の方に振興会を身近なものとして感じてもらうべく、積極的に参加していただければ幸いです。今後も皆様に寄り添った活動を行っていききたいと思います。